

平成 23 年度 青葉区区民意識調査結果 — 概要版 —

青葉区では、平成 23 年度青葉区区政運営方針として

「住みつづけたいまち『青葉』をめざして」を基本目標に、
その目標達成に向けた施策として

- 1 こどもも大人も安心できるまち
- 2 自然と生活環境の調和がとれたまち
- 3 福祉を充実し、健康づくりを応援するまち
- 4 「住んでよかった」を実感できるまち
- 5 暮らしに潤いのあるまち

を推進しています。

平成 23 年度青葉区区民意識調査で得られた回答をもとに、この 5 つの施策に対する区民の皆さまの生活意識や、区政に対する満足度、要望等の集計報告を行います。

平成 23 年度青葉区区民意識調査 調査概要

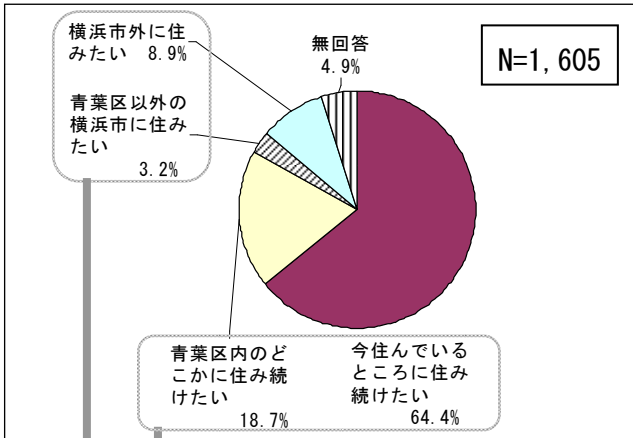
調査の目的	青葉区にお住まいの皆さまの生活意識や区政に対する満足度、要望等を的確に把握し、今後の区政運営に活かしていくことを目的とする。
調査対象	青葉区内在住の 16 歳以上男女 3,000 名（うち外国人 60 名）
抽出方法	住民基本台帳及び外国人登録原票からの無作為抽出
調査方法	郵送によるアンケート方式
回答率	53.5%（有効回答者数 1,605 人）
調査期間	平成 23 年 6 月 9 日～6 月 22 日
設問分野	生活環境、災害対策、子育て、ヨコハマ 3 R 夢プラン、健康、地域活動、行政サービス、広報、駅周辺のまちづくり 等
図表の見方	図中に示している「N=〇〇」は、その設問に対しての「回答者数」を意味する。

目 次

住みつづけたいまち『青葉』をめざして	3
青葉区への定住意向	
身近な住環境について心配なこと	
1 こどもも大人も安心できるまち	5
平日の昼間に大地震が起きたときに不安に思うこと	
家庭で行っている災害対策	
住宅用火災警報器等の設置の義務化について	
子育てについて、不安もしくは不満と思うこと	
日中、在宅で子育てをしている家庭が充実してほしいこと	
2 自然と生活環境の調和がとれたまち	9
青葉区産の農産物の購入経験の有無	
「ヨコハマ3 ^{スリム} R夢」プランについて	
3 福祉を充実し、健康づくりを応援するまち	10
健康づくりのために取り組んでいること	
横浜市の歯周疾患検診について	
大腸がん、子宮がん、乳がん検診の情報を得ている場所	
大腸がん、子宮がん、乳がん検診を受けたかどうか	
4 「住んでよかった」を実感できるまち	13
地域にあると思う課題や問題	
地域住民同士の協力関係を活性化するために必要なこと	
日常生活で、困ったときに相談する相手	
広報よこはま青葉区版を読む頻度	
青葉区広報テレビ番組「あおバリューTV from 丘の横浜」について	
コミュニティFMラジオ「FMサルース(84.1MHz)」について	
5 暮らしに潤いのあるまち	16
最寄り駅周辺への評価	

青葉区に住み続けたい と思っている人が83.1%（平成21年度調査に比べ4.5ポイント増）

→「今住んでいるところに住み続けたい」が最も高く6割を超えており、次いで「青葉区内のどこかに住み続けたい」が約2割となっている。



「青葉区に住み続けたい」

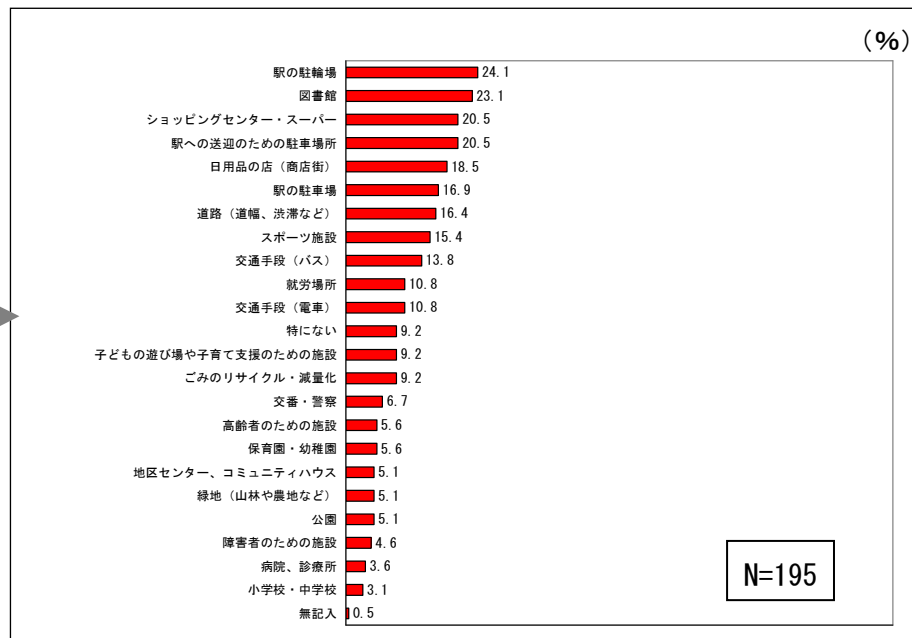
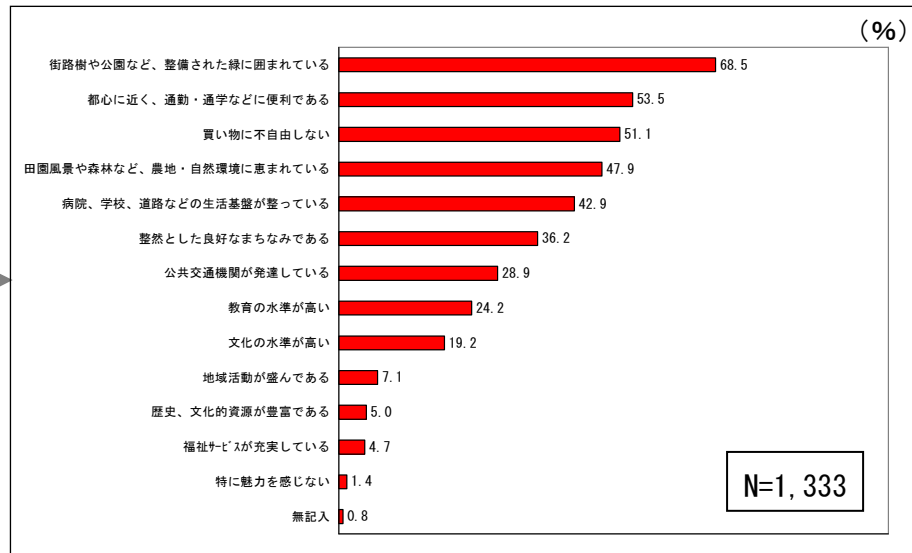
青葉区の魅力として「街路樹や公園など、整備された緑に囲まれている」が最も多くなっている。

「青葉区外に住みたい」

青葉区で不足・不便なこととして「駅の駐輪場」・「図書館」が多くなっている。

青葉区外に住みたい回答者が思う青葉区での不足・不便

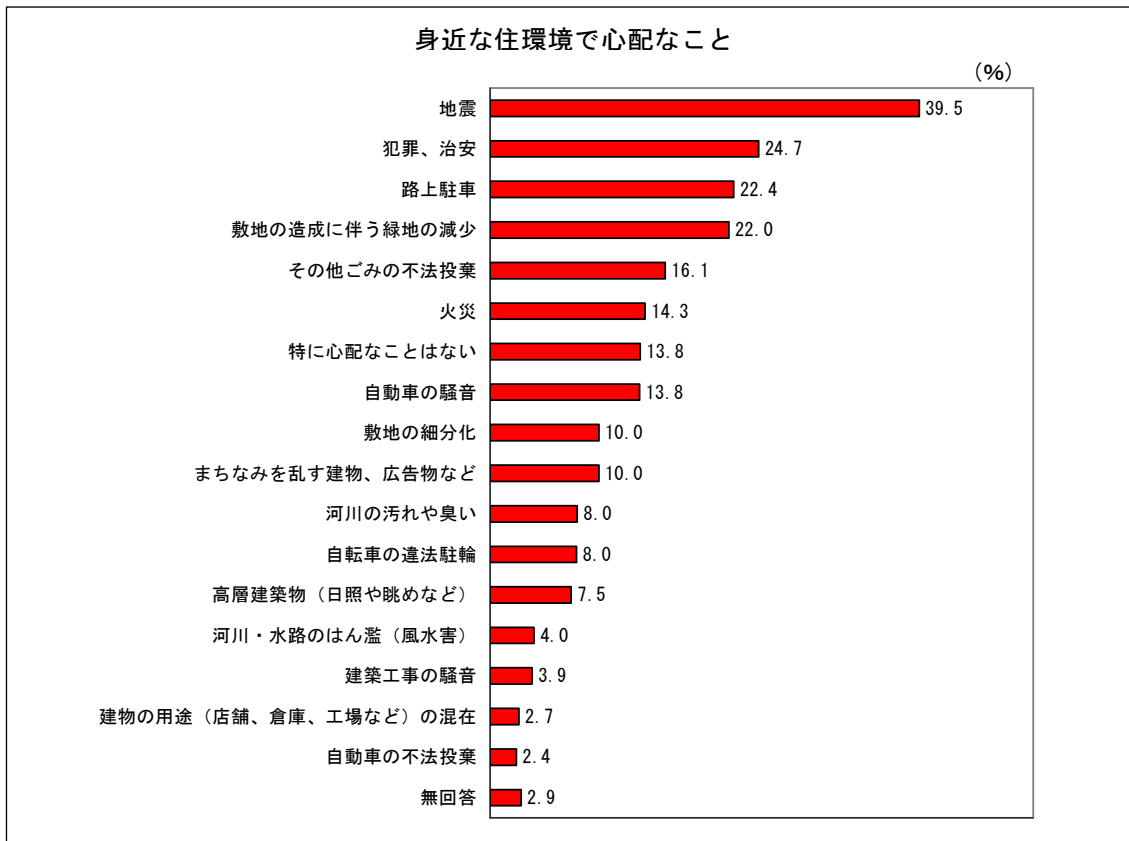
魅力 回答者が思う青葉区の魅力



身近な住環境について、心配なこと

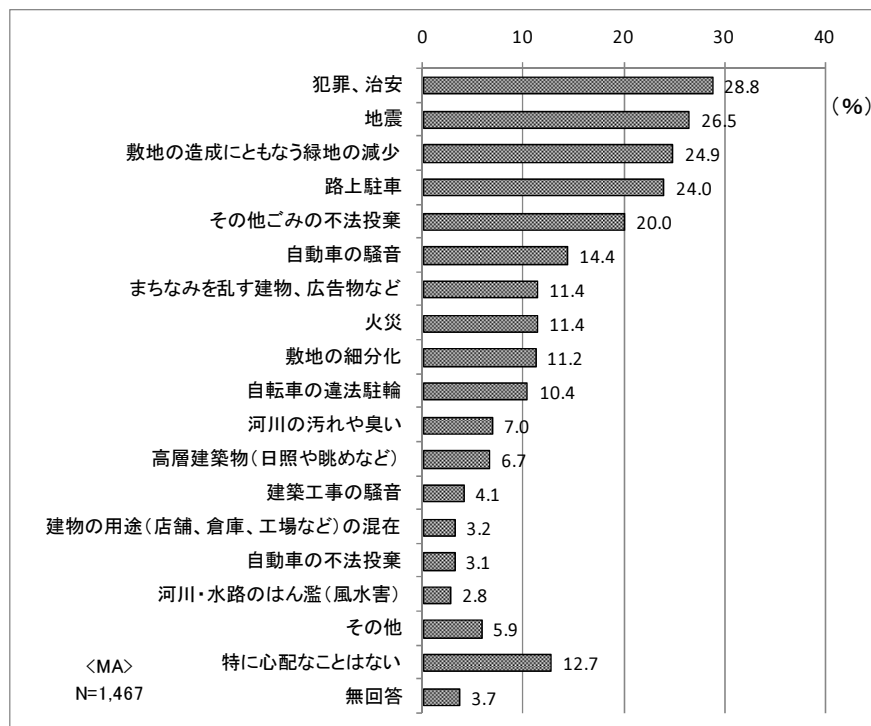
→「地震」が最も多く、平成23年3月に起きた東日本大震災の影響が大きいと思われる。

次いで「犯罪、治安」、「路上駐車」、「敷地の造成に伴う緑地の減少」となっている。



< 参考 平成22年度調査結果との比較 >

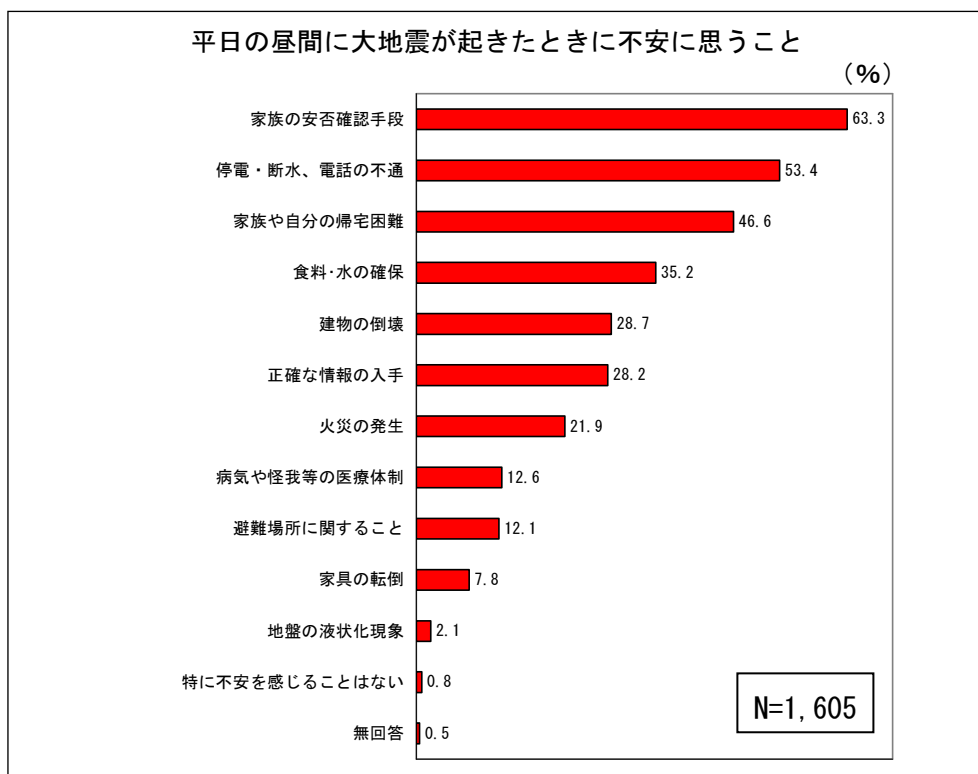
平成22年度調査結果と比較すると「地震」のポイントが大きく増えている。



1 こどもも大人も安心できるまち

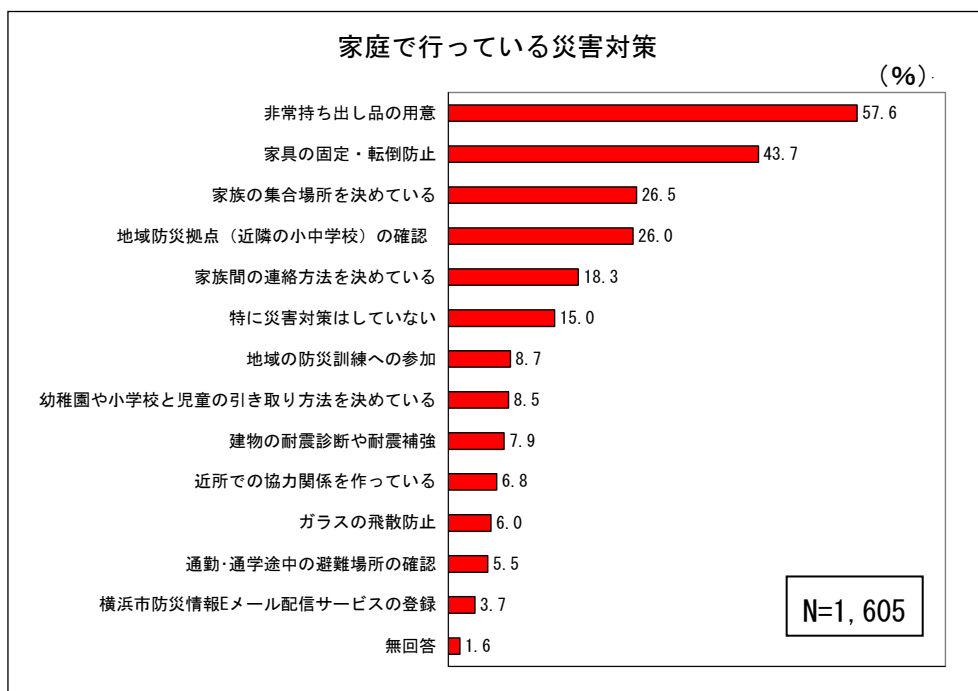
首都圏で平日の昼間に大地震が起きた場合、特に不安に思うこと

→「家族の安否確認手段」が最も多く、次いで「停電・断水、電話の不通」、「家族や自分の帰宅困難」、「食料・水の確保」の順に上位を占めている。



家庭で行っている災害対策

→「非常持ち出し品の用意」が最も多く、次いで「家具の固定・転倒防止」、「家族の集合場所を決めている」となっている。

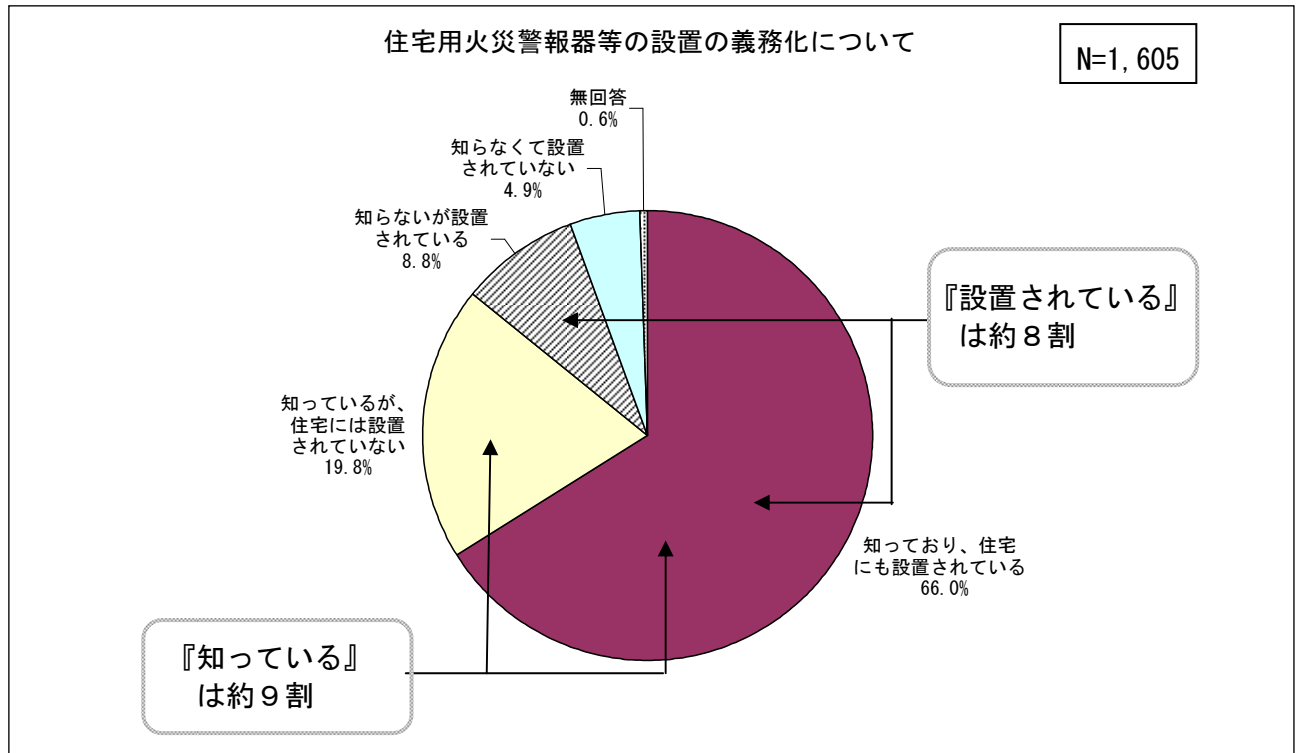


平成 23 年 5 月 31 日までに火災を自動で感知する住宅用火災警報器または、

自動火災報知設備の設置がすべての住宅に義務付けられたことについて

→設置の義務化について『知っている』と回答者したのは9割近くになっている。

また『設置されている』と回答したのは8割近くである。



平成 23 年 6 月より、寝室・台所・階段（寝室が2階の場合）に、住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。



青葉区マスコット「なしかちゃん」

子育てについて、不安もしくは不満と思うこと

→同居家族に乳幼児・未就学児がいる家庭と同居家族に小学生～高校生がいる家庭において「学校や塾の費用などの教育費の負担が大きいこと」が共通して最も多くなっている。

乳幼児・未就学児がいる家庭では「子どもを気軽に預けられるところが少ないこと」が続いていて、小学生～高校生がいる家庭では「登下校時の安全」が続いている。

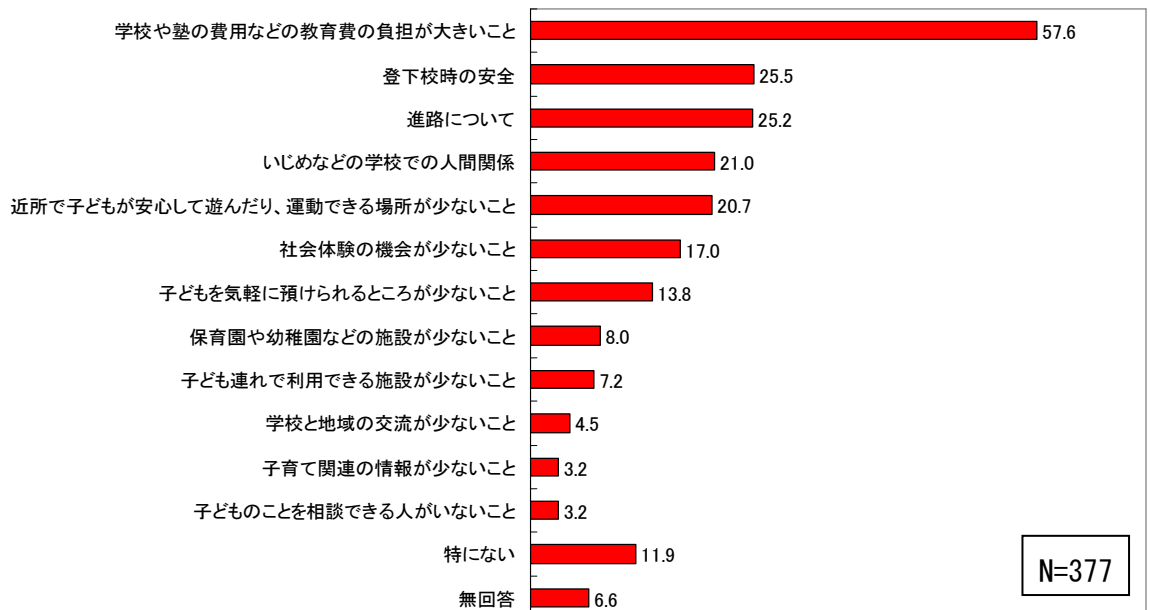
同居家族に乳幼児・未就学児がいる家庭の子育てについての不安、不満

(%)



同居家族に小学校～高校生がいる家庭の子育てについての不安、不満

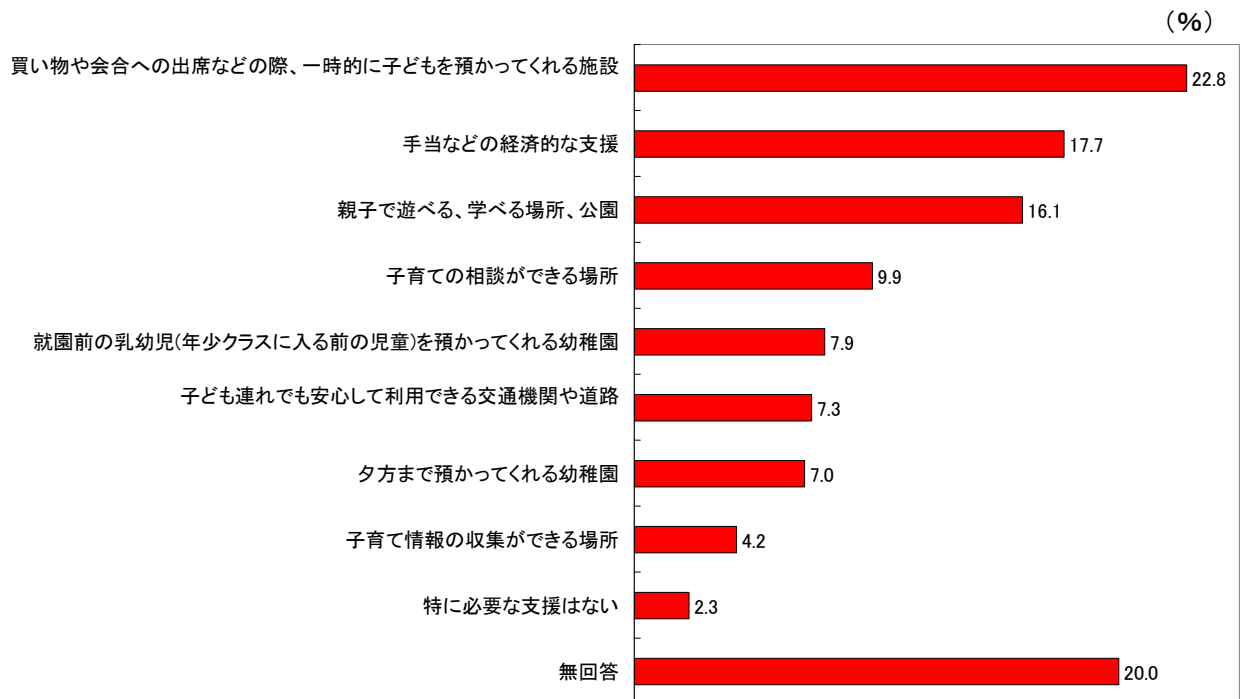
(%)



**家族に小学生以下の子どもがいて、日中、在宅で子育てをしている家庭が
充実してほしいこと**

→「買い物や会合への出席などの際、一時的に子どもを預かってくれる施設」が最も多く、次いで「手当などの経済的な支援」となっている。

同居家族に小学生以下の子どもがいる家庭が望む子育て家庭への支援



N=355

地域子育て支援拠点「ラフール」がオープンしました！

地域子育て支援拠点「ラフール」では

- ・就学前のこども・妊娠中の人とその家族が気軽に立ち寄って過ごせる「みんなの広場」
- ・子育て相談
- ・子育て情報の収集・発信
- ・子育てネットワークづくり支援
- ・子育て支援を行う人材育成

などの活動を中心に、青葉区の子育てを支えます！

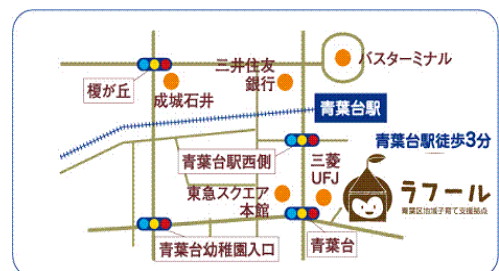
【開所曜日】火～土曜日

【開所時間】午前9時～午後5時

「みんなの広場」午前10時～午後4時

【所在地】青葉台一丁目四番地

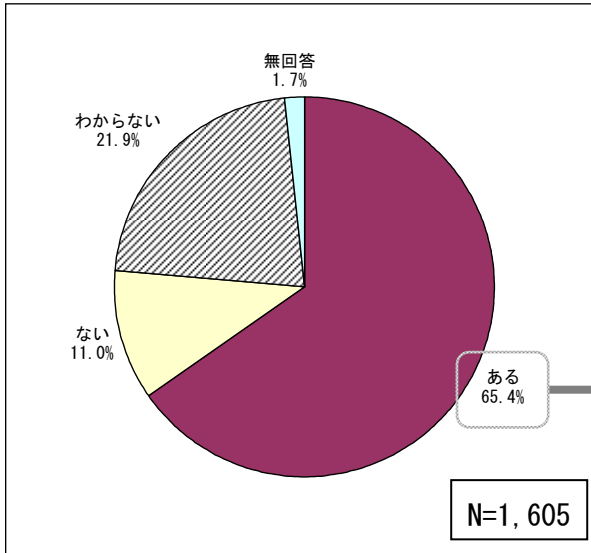
青葉台消防出張所複合施設6階



2 自然と生活環境の調和がとれたまち

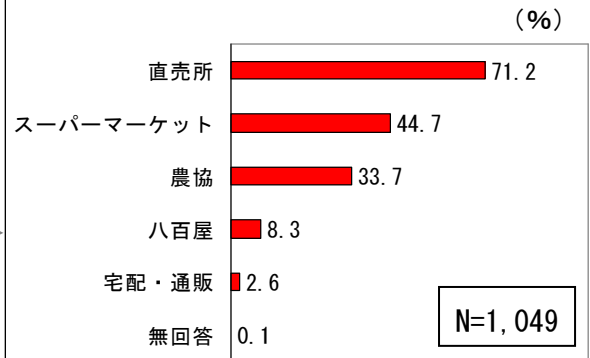
青葉区産の農産物の購入経験の有無

→「ある」が7割近くになっている。



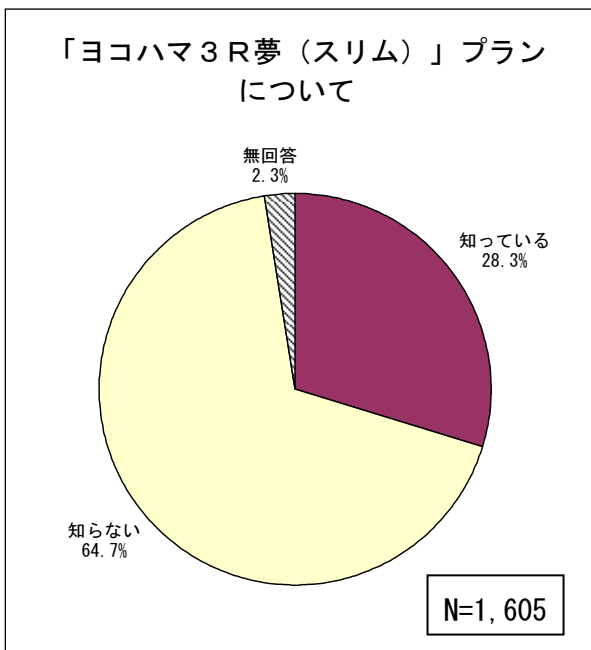
青葉区産の農産物を買った場所

→「直売所」が最も多く、次いで「スーパーマーケット」となっている。



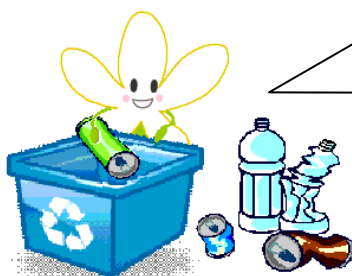
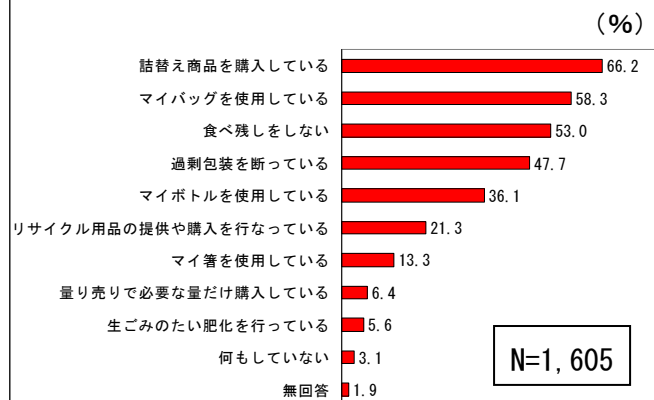
「ヨコハマ3R夢^{スリム}」プランについて

→「知らない」が6割を超えている。



ごみと資源を削減するために行っている方法

→「詰め替え商品を購入している」が最も多く、次いで「マイバッグを使用している」、「食べ残しをしない」が続いている。

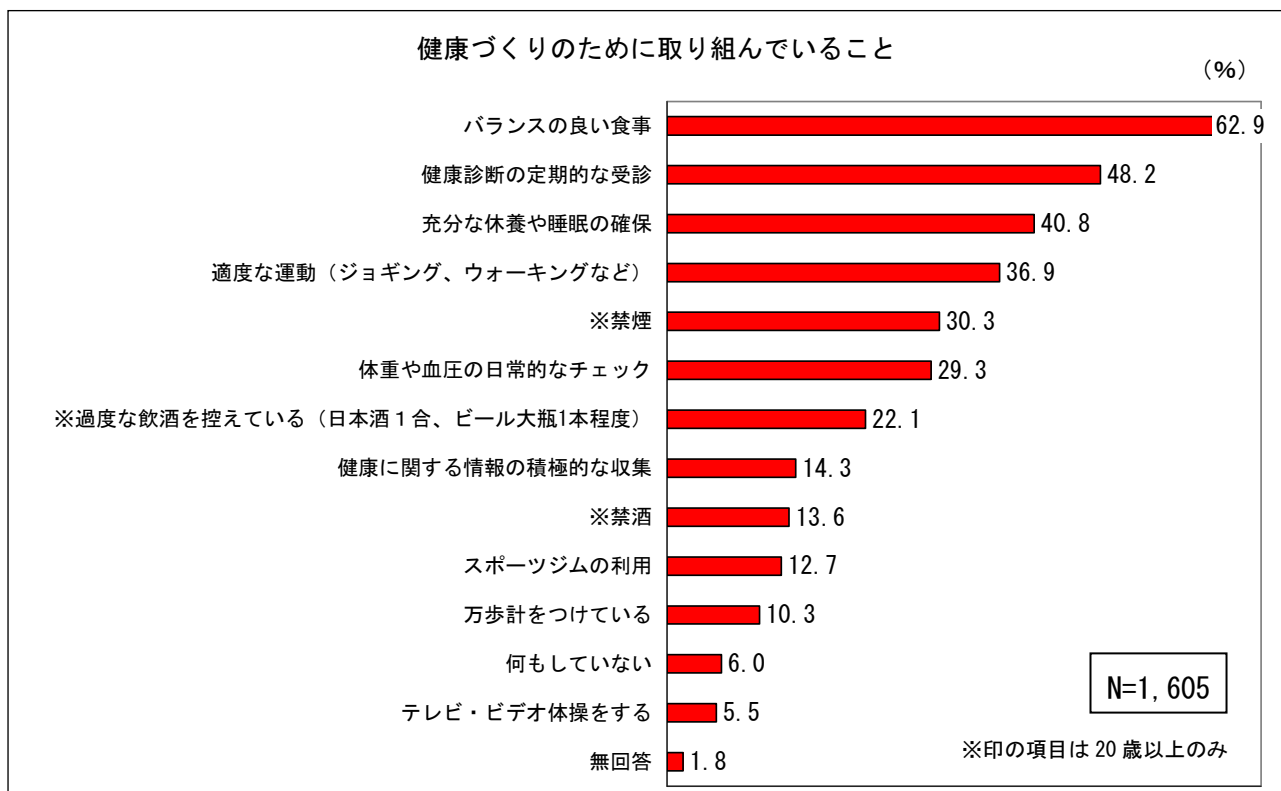


横浜市では、平成21年度を基準に、ごみと資源の総排出量を25年度に3%以上、37年度に10%以上の削減、さらに、ごみ処理に伴う温室効果ガスの排出量を25年度に15%以上、37年度に50%以上を削減する「ヨコハマ3R夢(スリム)」プランを策定しました。「ヨコハマ3R夢」プランでは、家庭から出されるごみと資源物全体の削減を目指しています。

3 福祉を充実し、健康づくりを応援するまち

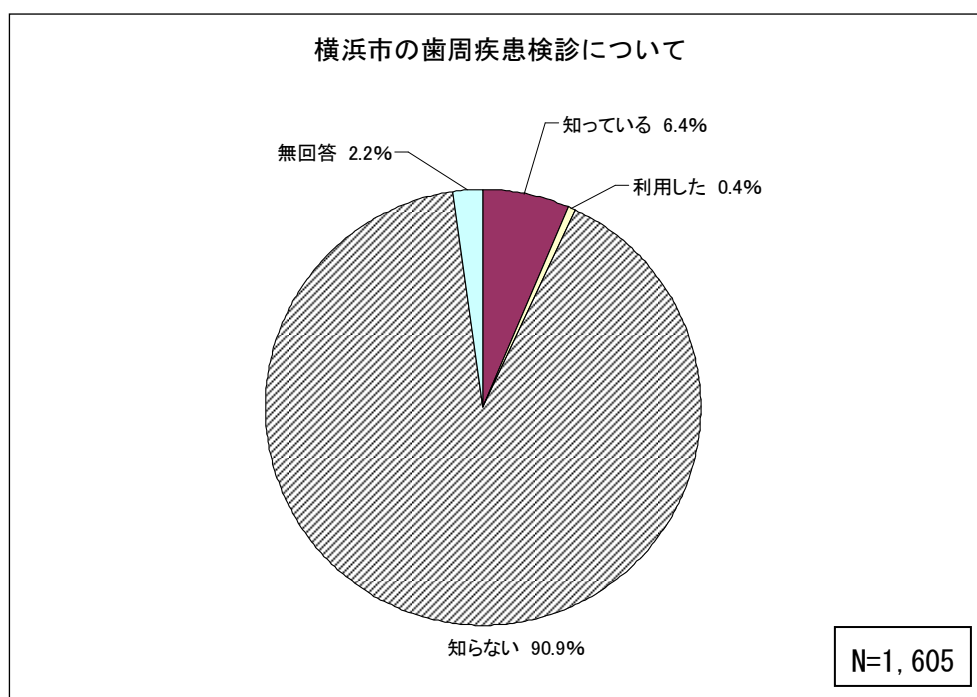
健康づくりのために取り組んでいること

→「バランスの良い食事」が最も多くなっている。



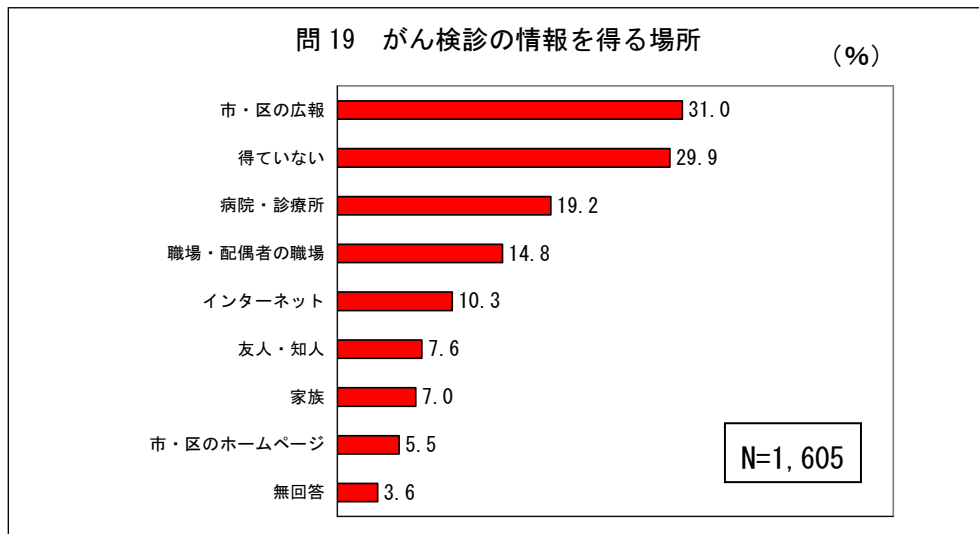
横浜市の40歳、50歳、60歳、70歳を対象とした歯周疾患検診について

→「知らない」が9割以上となっている。



大腸がん、子宮がん、乳がん検診の情報を得ている場所

→「市・区の広報」と「得ていない」が上位を占めている。



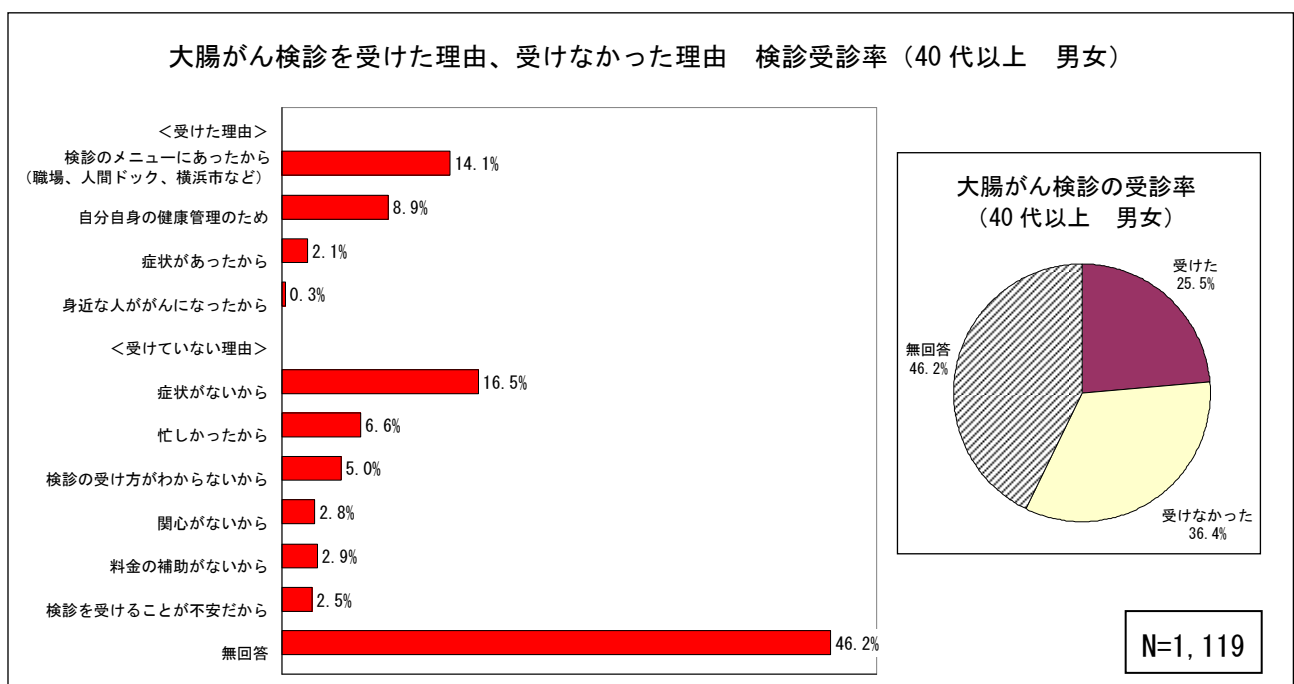
がん検診は定期的に行うことをおすすめします。がん検診は福祉保健センター、各種医療機関、職場の健康診断などで受けることができます。

横浜市のがん検診は職場等で受ける機会がない方で、大腸がん（40歳以上）は年に1回、子宮がん（20歳以上）と乳がん（40歳以上）は2年に1回受けることができます。

料金等はそれぞれ異なりますので、横浜市のがん検診を受ける方は「横浜市・青葉区のホームページ」「福祉保健センターからのお知らせ」をご覧ください。

1年以内に大腸がん検診を受けたかどうか

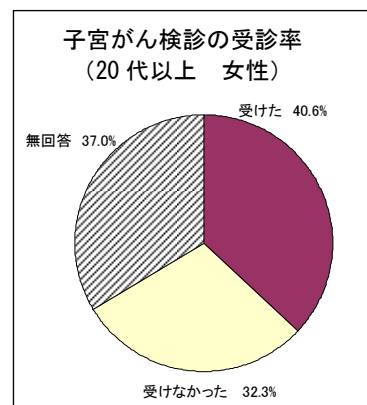
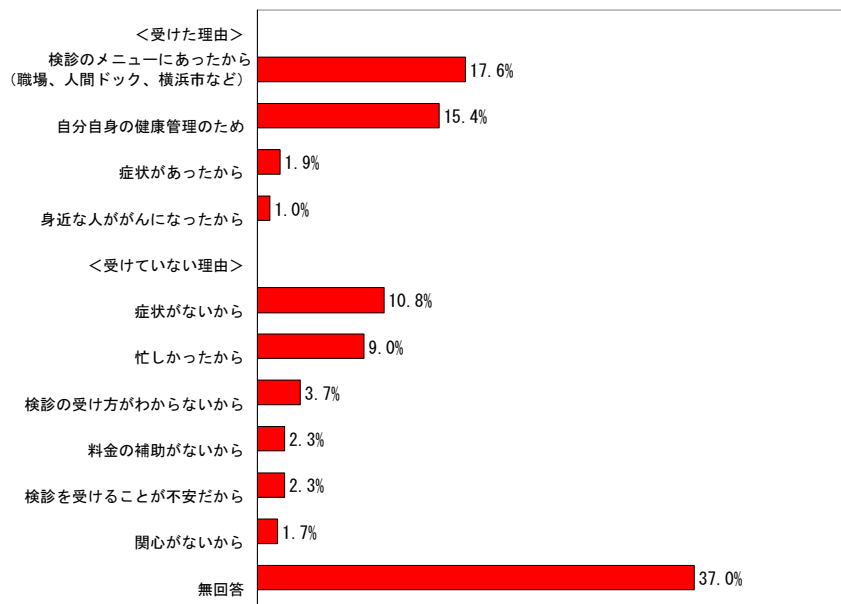
→大腸がん検診対象者である40代以上の男女の回答者では、大腸がん検診を受けたのは3割弱となっている。受けた理由は「検診のメニューにあったから（職場、人間ドック、横浜市など）」が最も多く、受けていない理由では「症状がないから」が最も多くなっている。



2年以内に子宮がん検診を受けたかどうか

→子宮がん検診対象者である20代以上の女性の回答者では、子宮がん検診を受けたのは約4割となっている。受けた理由は「検診のメニューにあったから（職場、人間ドック、横浜市など）」が最も多く、受けていない理由では「症状がないから」が最も多くなっている。

子宮がん検診を受けた理由、受けなかった理由 検診受診率（20代以上 女性）

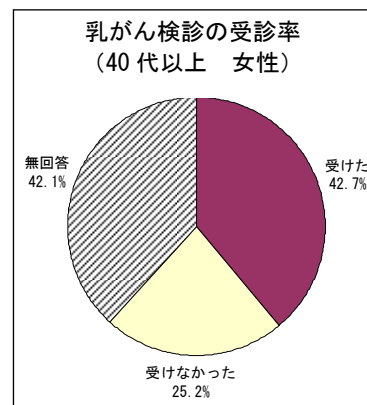
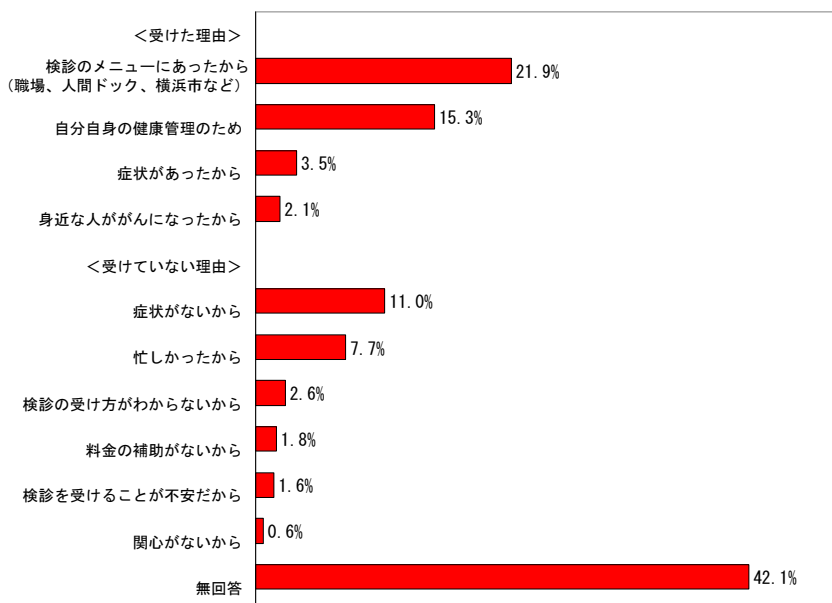


N=864

2年以内に乳がん検診を受けたかどうか

→乳がん検診対象者である40代以上の女性の回答者では、乳がん検診を受けたのは4割を超えている。受けた理由は「検診のメニューにあったから（職場、人間ドック、横浜市など）」が最も多く、受けていない理由では「症状がないから」が最も多い。

乳がん検診を受けた理由、受けなかった理由 検診受診率（40代以上 女性）

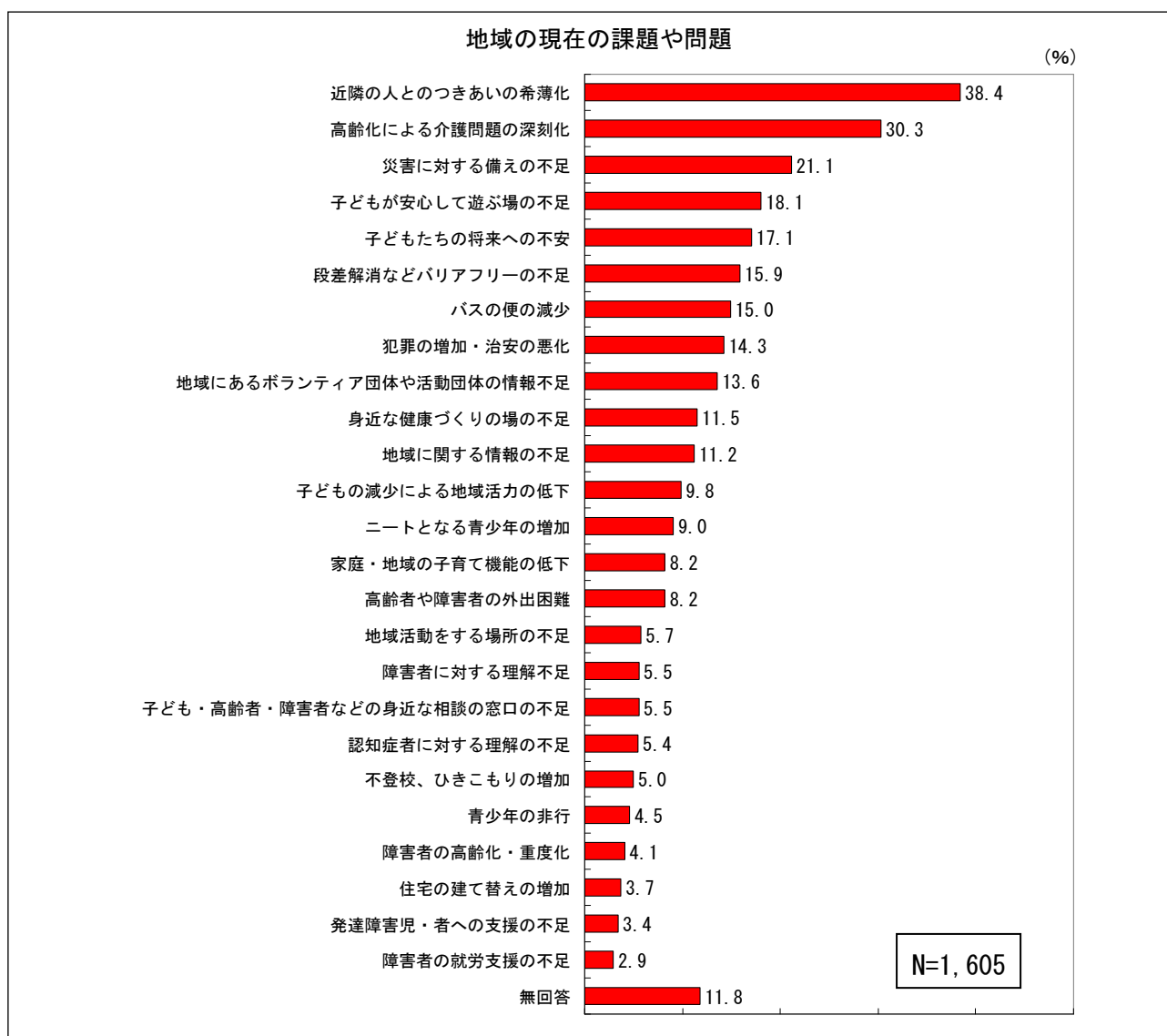


N=627

4 「住んでよかった」を実感できるまち

地域にあると思う課題や問題

→「近隣の人とのつきあいの希薄化」が最も多く、次いで「高齢化による介護問題の深刻化」、「災害に対する備えの不足」となっている。



年代別 地域の現在の課題や問題

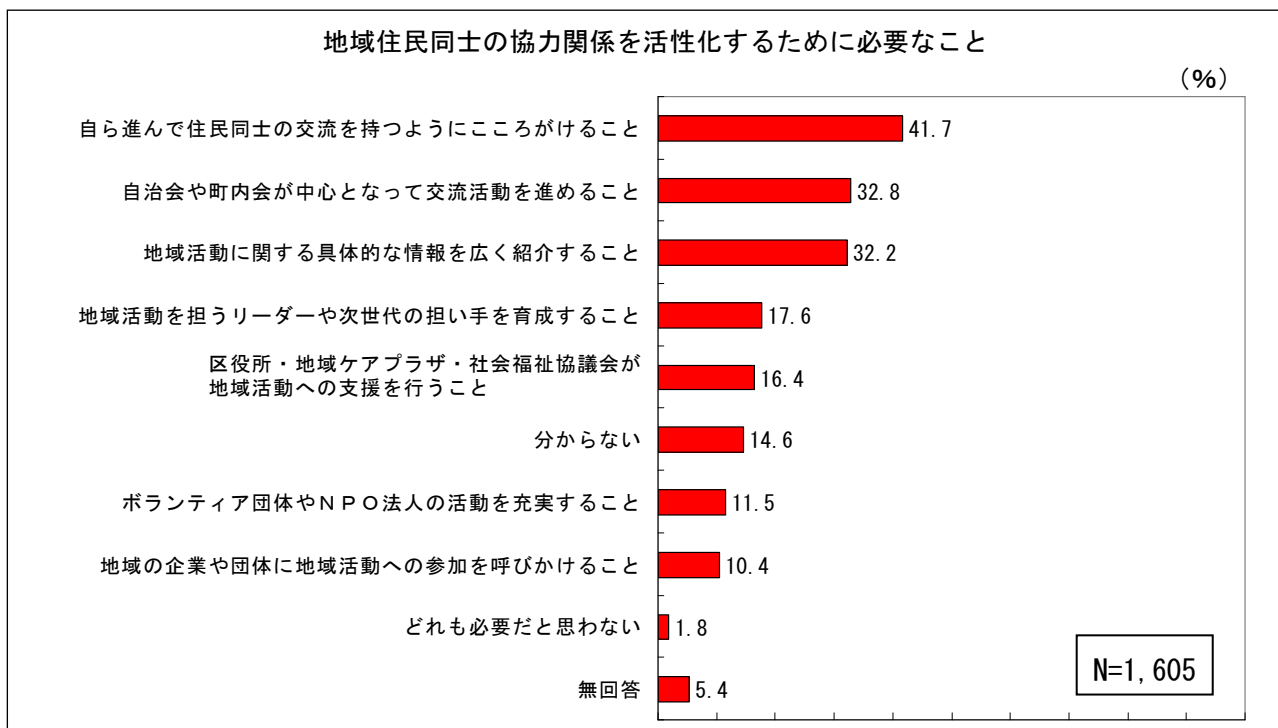
年代別でも「近隣の人とのつきあいの希薄化」が共通して最も多くなっているが、2番目、3番目に多いものを比べると、各年代ともそれぞれ直面していることが異なっている様子がある。

(%)

	(全体)	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答
全体 (人)	1605	53	142	260	373	248	283	215	31
近隣の人とのつきあいの希薄化	617	32.1	47.9	39.2	31.4	41.9	43.1	36.7	25.8
子どもが安心して遊ぶ場の不足	290	20.8	21.8	30.4	22.5	14.9	9.5	8.4	9.7
子どもたちの将来への不安 (進学、就職、友だちづきあい、結婚など)	274	18.9	18.3	16.2	26.8	16.1	11.3	10.2	6.5
高齢化による介護問題の深刻化	486	1.9	14.1	15.8	26.8	39.1	41.3	47.0	29.0
地域にあるボランティア団体や活動団体の情報不足	218	9.4	14.8	8.8	11.3	15.7	17.3	15.8	16.1
災害に対する備えの不足	339	9.4	29.6	20.4	27.6	27.4	14.1	10.2	19.4
バスの便の減少	240	22.6	20.4	17.3	13.4	12.1	11.3	17.2	16.1
無回答	190	11.3	7.7	10.4	10.2	11.3	12.0	17.2	29.0

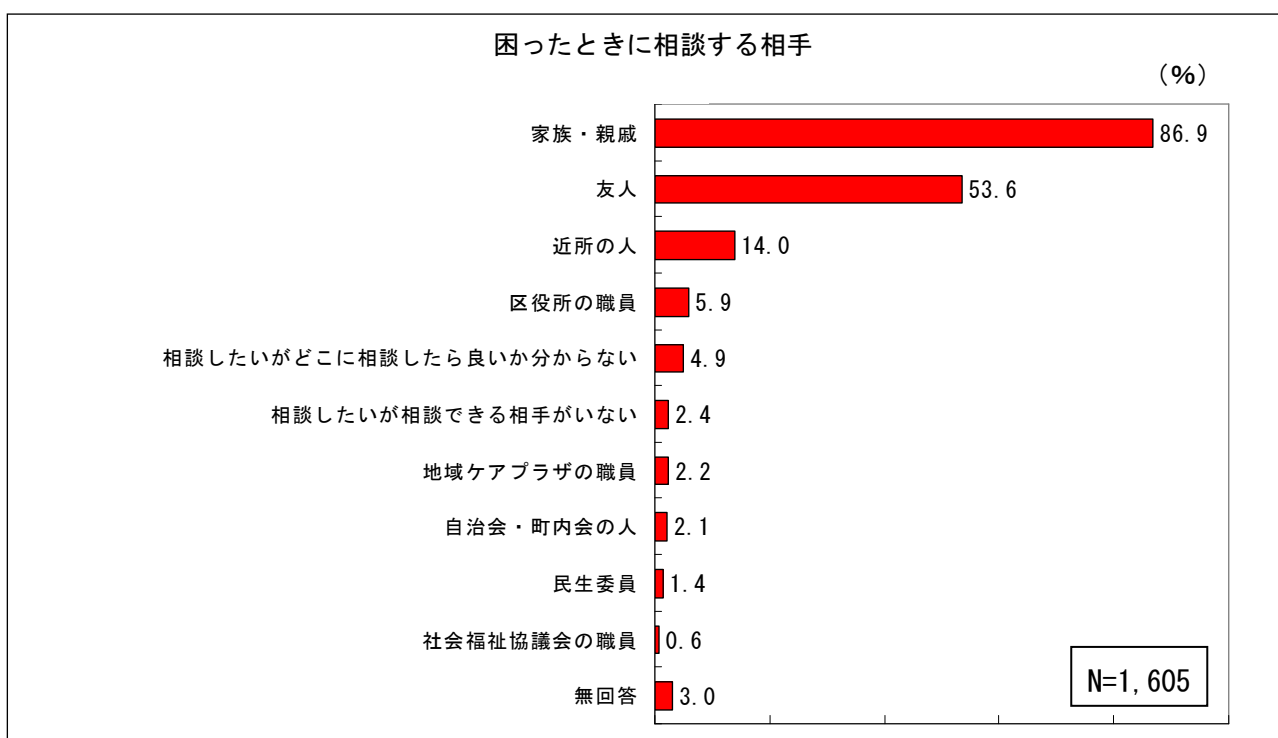
地域住民同士の協力関係を活性化するために必要なこと

→「自ら進んで住民同士の交流を持つようにこころがけること」が最も多く、
次いで「自治会や町内会が中心となって交流活動を進めること」、
「地域活動に関する具体的な情報を広く紹介すること」となっている。



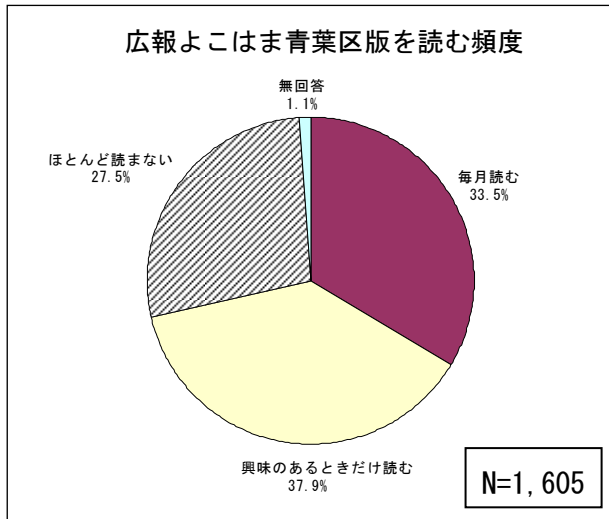
日常生活で、困ったときに相談する相手

→「家族・親戚」が最も多く8割を超えている。
次いで「友人」が5割を超えている。



広報よこはま青葉区版を読む頻度

→「興味のあるときだけ読む」が最も高く約4割、「毎月読む」と合わせると7割を超えている。



年代別 広報よこはま青葉区版を読む頻度

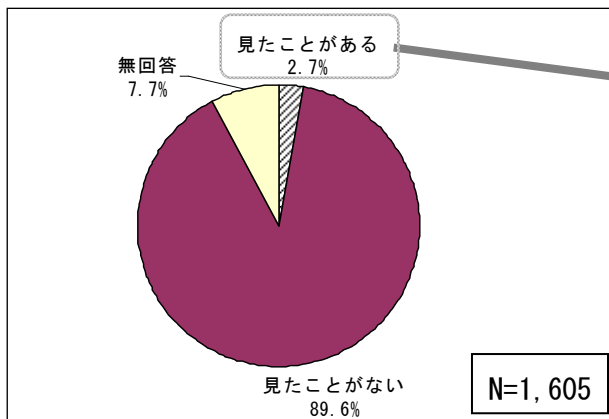
「毎月読む」のは30代と60代、70歳以上が最も多くなっている。「毎月読む」30代の内訳は性別では8割近くが女性、家族構成別では「親と子（2世代）」家庭が8割近くになっている。

(%)

	全 (人) 体	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 歳以上	無 回 答
全体(人)	1605	53	142	260	373	248	283	215	31
毎月読む	538	5.7	5.6	35.8	34.0	27.8	41.7	51.2	32.3
興味のあるときだけ読む	609	24.5	24.6	32.3	41.0	49.6	41.3	32.1	48.4
ほとんど読まない	441	66.0	69.7	30.8	24.9	21.8	16.6	13.0	16.1
無回答	17	3.8	0.0	1.2	0.0	0.8	0.4	3.7	3.2

青葉区広報テレビ番組「あおバリューTV from 丘の横浜」について

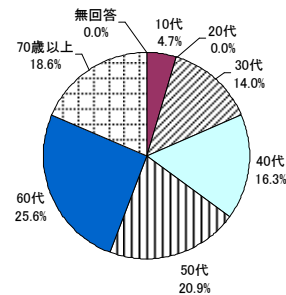
→「見たことがない」が全体の約9割になっている。



年代別

「あおバリューTV from 丘の横浜」の視聴者

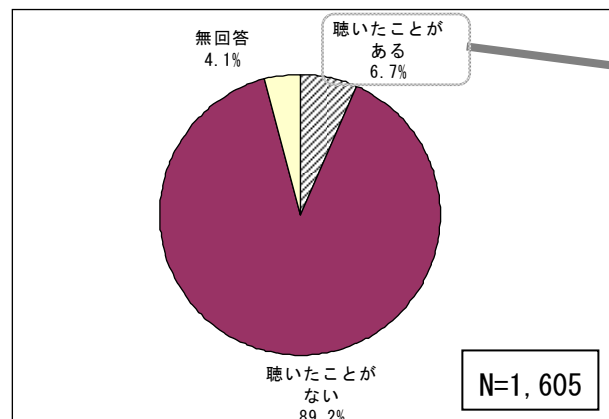
60代が最も多く、10代が最も少なくなっている。



コミュニティFMラジオ「FMサルス (84.1MHz)」で発信している

青葉区からの行政情報（青葉区からのお知らせ）について

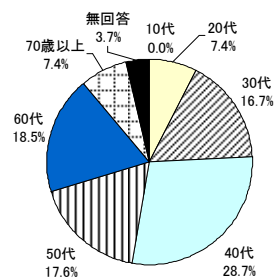
→「聴いたことがない」が全体の約9割になっている。



年代別

「FMサルス (84.1MHz)」の聴取者

40代が最も多く、10代と70代が最も少なくなっている。



5 暮らしに潤いのあるまち

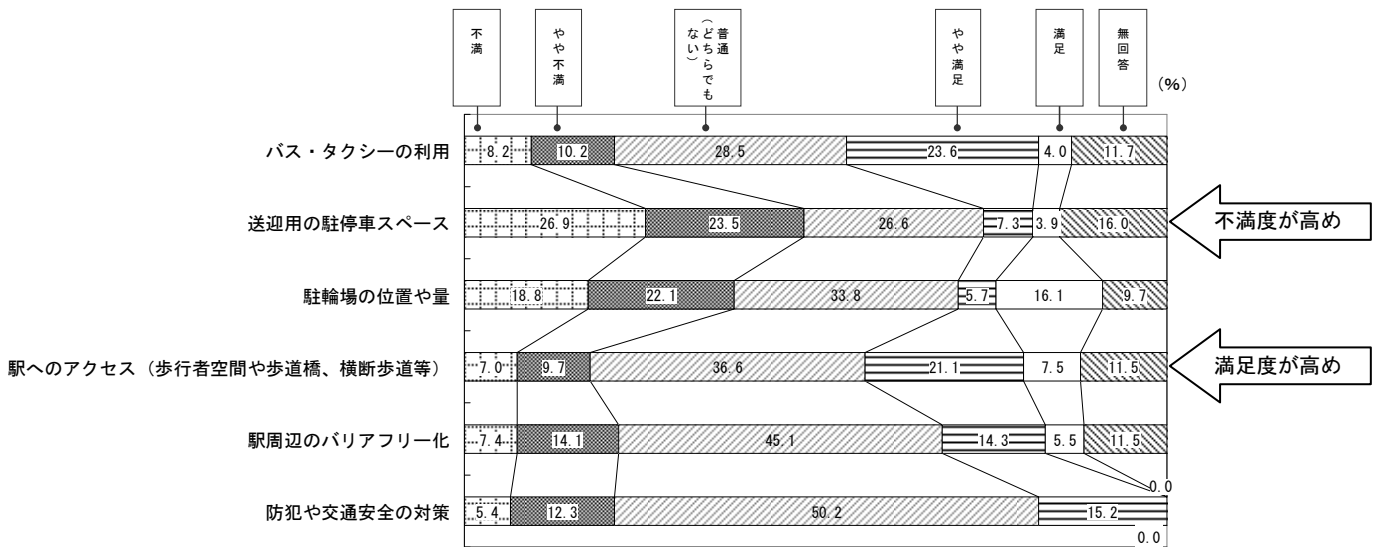
最寄り駅周辺への評価

→満足度が高いのは「駅へのアクセス」、「日用品の店」、「自然環境」、
不満足度が高いのは「送迎用の駐停車スペース」、「個性的な店や魅力的な店」、
「まちなかで座れる場所や落ち着ける場所」である。

交通や安全性の満足度

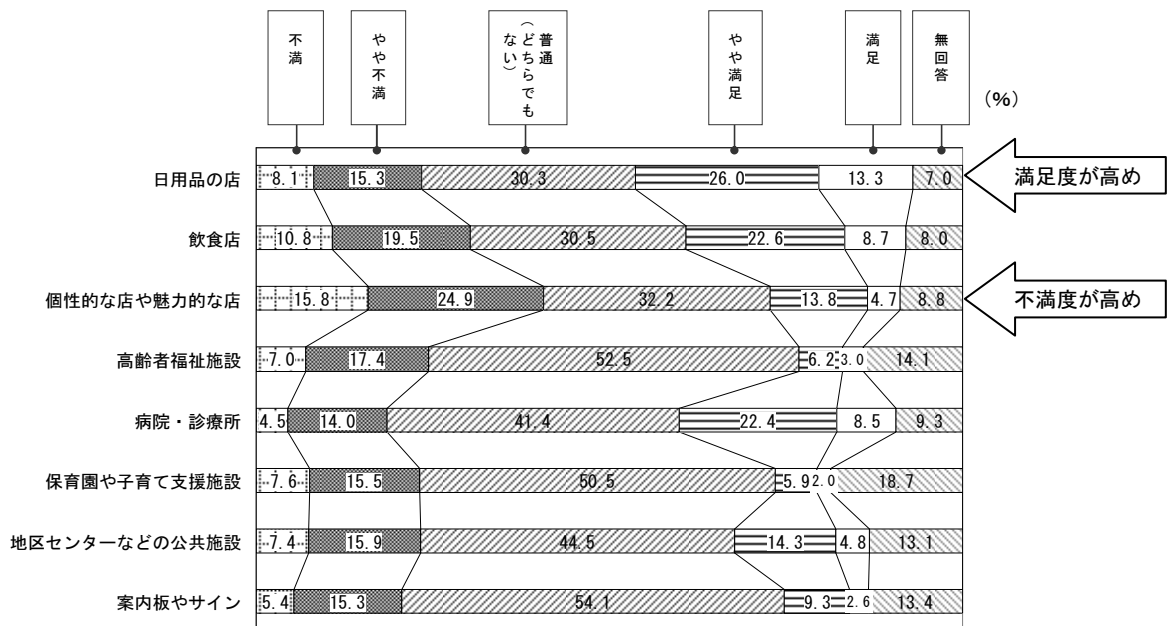
N=1,605

「駅へのアクセス（歩行者空間や歩道橋、横断歩道等）」への満足度が高く、
「送迎用の駐停車スペース」の不満足度が高い。



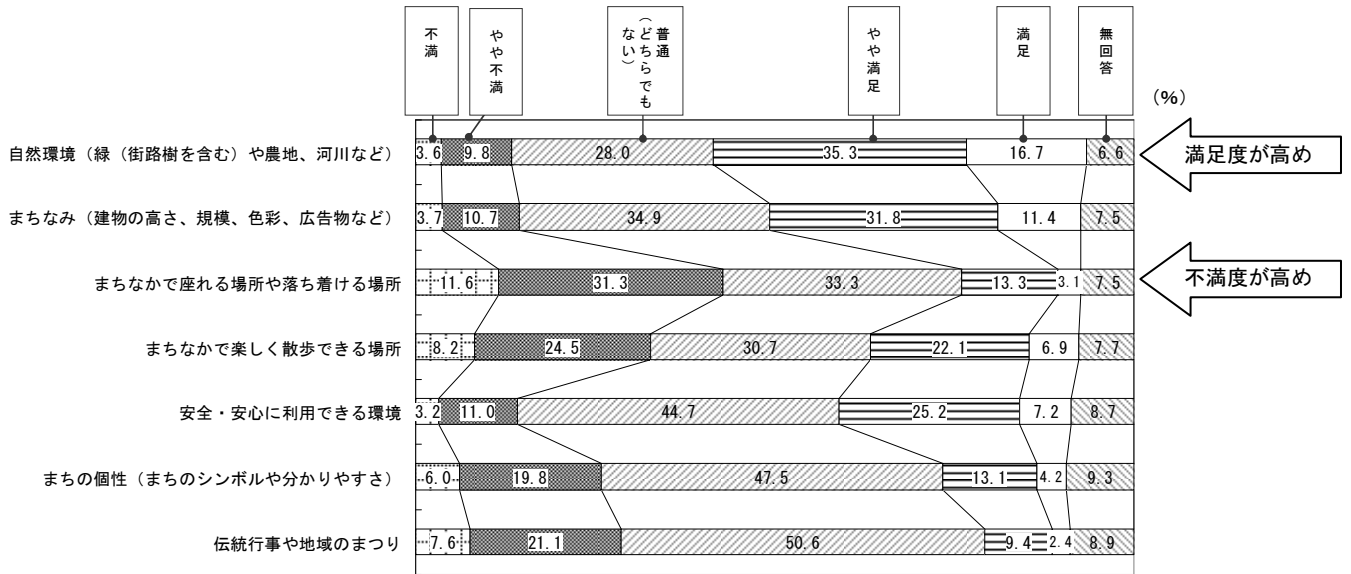
施設利用の満足度

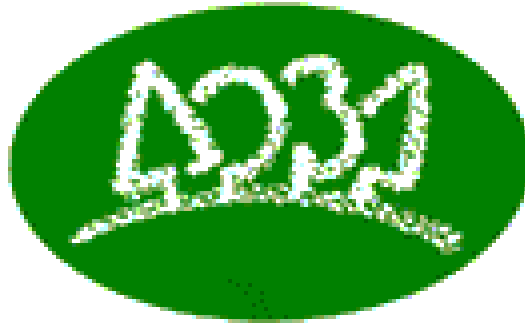
「日用品の店」への満足度が高く、「個性的な店や魅力的な店」への不満が高い。



うるおいや居心地の満足度

「自然環境（緑（街路樹を含む）や農地、河川など）」が高く、
「まちなかで座れる場所や落ち着ける場所」への不満が高い。





青葉区のシンボルマーク「丘の横浜」

発行日 平成 23 年 9 月

発行 青葉区総務部 区政推進課 企画調整係

〒225-0024 横浜市青葉区市ヶ尾 31 番地 4

電話： 045-978-2217

FAX： 045-978-2410

青葉区ホームページ

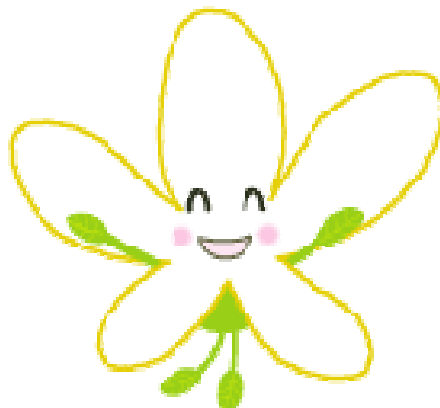
平成 23 年度区政運営方針 web サイト

<http://www.city.yokohama.lg.jp/aoba/50kusei/policy2011.html>

青葉区区民意識調査 web サイト

<http://www.city.yokohama.lg.jp/aoba/50kusei/research.html>

平成 23 年度区民意識調査にご協力くださいました皆さま、どうもありがとうございました。



青葉区マスコット「なしかちゃん」